



地域なんでも情報局

第24号
平成28年9月14日発行
長崎市社会福祉協議会
長崎市上町1番33号
TEL: 828-1281

「大地震です！大地震です！」

長崎の夜の街に鳴り響く防災行政無線からの緊急地震速報、そして、携帯電話の緊急速報アラーム。長崎市内でも強い揺れが観測され、強い恐怖や不安を感じた方も多かったのではないのでしょうか。

平成28年4月14日(木)の熊本県熊本地方を震源とする地震は、多数の死傷者や家屋の倒壊など、熊本県益城町をはじめ、県内外に多大な被害を与えました。

地震発生から約5カ月が経過した今でもなお、長期化する避難生活や見通しの立たない今後の生活への不安を抱く、多くの被災者がおられます。

赤い羽根共同募金では、被災された方々を支援していくため、次の取り組みを行っています。

「ボラサポ・九州」
赤い羽根「災害ボランティア」
NPO活動サポート基金・九州

「ボラサポ・九州」とは、支える人を支える募金です。

熊本地震の被災地では、緊急的な支援はもとより、今後、生活やコミュニケーションを再建していくために、被災地住民同士が支えあう活動や、全国から応援に入るボランティアグループ・NPO団体などが行う活動により、被災された方々を長期間、継続的に支えることが重要となります。

赤い羽根共同募金の災害支援 被災された方々を支える取り組み

このように、被災地で支援活動を行う団体を経済的に支えることを目的に、募金(支援金)を集めるといふものが「ボラサポ・九州」です。

平成28年5月13日現在、約3億1千7百万円の募金が全国から寄せられています。この募金は、各団体から申請された支援活動の内容をもとに、中央共同募金会に設置された運営・審査委員会の審査を経て、助成の有無が決定されます。

このように、「ボラサポ・九州」への募金は、被災地で活動する各団体への助成を通じて、被災された方々を支援するものです。

「義援金募集」
被災された方々へ、直接届けられるお見舞金です



「義援金」は、災害により被災された方々へのお見舞金として、共同募金会や

日本赤十字社、被災都道府県庁などでお預かりした全額が、それぞれの都道府県に設置される義援金配分委員会に集約され、被害状況に応じて配分額を決定し、市町村行政から被災された方々に届けられます。

平成28年6月8日現在、137億5千9百12万円(6月3日現在確認済の義援金総額の約83.2%)が被災者の方々に配分されています。

同年7月11日現在、長崎県共同募金会に寄せられた義援金総額は22万8千6百75円となっています。

なお、熊本地震義援金は平成29年3月31日(金)まで受け付けを行っております。詳しくは、長崎県共同募金会長崎支会(長崎市社会福祉協議会)へお問い合わせください。

「災害等準備金」
赤い羽根共同募金が被災地を支えます

全国の都道府県共同募金会では、災害時に被災地でのボランティア活動を支援するため

赤い羽根共同募金の実績総額の約3%が「災害等準備金」として毎年積み立てられています。

大きな災害が発生した際には、被災地復興のため、全国各地からボランティアの方々が被災地に訪れ、家屋の土砂の撤去や側溝の泥上げなどの活動を行っています。このような災害ボランティア活動を支援する「災害ボランティアセンター」の運営を資金的に支える仕組みが「災害等準備金」です。

今回の熊本地震でも、全国の都道府県共同募金会から2億6千万円が拠出(長崎県共同募金会は5百40万円を拠出)され、被災地の災害ボランティア活動を支えています。

あの人ー！どんな人ー！こんな人ー！



社協 滑石支部 松本 義治さん

9時半の開会后、大人の部と子どもの部に分かれて開催され、最後には、順位発表と表彰式がありました。

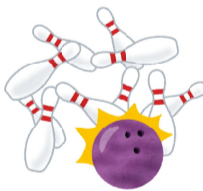
気になる結果は...

団体別では、1位が山手自治会、次いで葉山葵自治会、打坂自治会という結果でした。

表彰式では、入賞団体に賞状の授与が行われ、個人の入賞者には、お米10キロや生活用品などの景品が用意されました。

終始賑やかな雰囲気の中、盛況のうちに終了し、松本支部長は、「年に1度のこの大会をきっかけに、地域のふれあいを大事にしていこうという意識が芽生えたら幸いです。」と語られました。

親子ふれあいボウリング大会



滑石支部の大きなイベントの一つとして「親子ふれあいボウリング大会」があります。

今年度は、8月21日(日)9時30分より、大橋町の長崎ラッキーボウルで開催され、滑石地区の全11自治会から総勢140名ほどの参加がありました。

この大会は、年に1度のふれあいの場を目的に開催されているもので、なんと約20年以上続いている行事だそうです。



支部長より表彰状が授与されました

優勝おめでとうございます！

赤い羽根共同募金

今年、赤い羽根共同募金運動は創設70周年を迎えます。皆様からお寄せいただいた募金の一部が各地で災害に遭われた方々のために役立てられています。今年も、一人でも多くの皆様のご協力をお願いいたします。そして、被災地の日も早い復興をお祈りいたします。



西坂地区の防災への取り組み！



御船蔵町の崩落現場

去る6月28日(火)午後6時50分頃、降り続く雨の影響により、御船蔵町で斜面地の石垣が崩落し、民家6棟が全半壊するという災害が発生しました。これにより現場周辺の22世帯に避難指示が発令され、避難区域内に居住する住民は、西坂小学校の体育館や公民館へ避難を強いられました。突然の災害に避難された住民の方は、着の身着のまま避難されており、避難所で生活をどうするか不安を感じておられました。

そのような状況のなか、災害発生翌日には、西坂地区の連合自治会が関係団体と緊急の会議を開き、各関係団体と連携して避難所への食事などの支援や、行政への支援の呼び掛けを行い、避難されている方たちへの支援対応が迅速に行われました。こうした迅速な対応の背景には、西坂地区の日ごろからの備えがありました。

西坂地区では数年前から防災マップを作った地域の危険箇所を把握したり、地区で防災訓練をしたり、関係団体と連携して「防災協議会」を組織するなど、地域全体で防災に取り組んで来た経緯があります。去る7月3日にも御船蔵町の災害発生から5日後にもかかわらず、西坂地区での

西坂地区は斜面地が多く、高齢者も多く住んでいます。今回、御船蔵町の災害が発生したことにより、地域の方の防災意識も高まったのではないかと思います。しかし、いざ災害が起きた時、日ごろからの住民同士のつながりや、助け合いがなければ、迅速に対応することは難しいものです。西坂地区では、そういった日ごろからの地域のつながりを強くするために、地区をあげた行事を開催したり、住民参加の活動に力を入れるなどして、災害に強いまちづくりに取り組んでいます。



防災訓練の様子

消火器で火元を狙って それ！消火！！



のっぽタワー

どのチームが高く積めるかな？

『のっぽタワーゲーム』では、紙パックを使って、チームみんなひとりの力を合わせ、制限時間内にどこまで積み重ねられるか、その高さを競います。『ロングロングゲーム』は、新聞紙をリングの皮むきのように手先で破りながら、制限時間内でどれだけ長くつなげていけるか、その長さを一人ひとりが競います。

のっぽタワーゲームでは、途中でタワーが崩れてしまうチームや制限時間内に紙パックを立て、高さを一気に稼ぐチームもありました。最後には1位・2位のチームと大人チームで対戦し、大人も頑張りましたが、



110名参加

ロングロング

なが〜い！



みんな真剣・・・

ダイヤランド支部山下支部長は、このような企画が家の中の会話になって、社協支部が地域のいろんな団体や世代の違う人たちの接点になるよう、これからも「目玉なけれどキラリと光る活動」を継続していきたいと語ってくさいました。



ダイヤランド支部も夏休み企画

夏休みに入って一週間後の7月27日(水)の朝、ダイヤランド・小ヶ倉ふれあいセンターからは、子どもたちの大きな声が聞こえていました。この日行われていたのは、社協ダイヤランド支部主催で開催された「子ども会交流お楽しみ会」です。

子供たちの足の速さには勝てず、完敗でした。ロングロングゲームでは、みんな真剣に新聞紙を破り、最後には子どもも大人も長さを競っていました。

ダイヤランド支部では、この日のために、役員の方々と企画を行い、連合自治会、各自治会(子ども会)や学童保育、老人クラブに呼びかけ、また、南長崎小学校の協力で全校生徒に案内チラシを配布されたそうです。昨年は子どもから高齢者まで入り混じって輪投げや水鉄砲をして遊んだとのことですが、今年も子どもに加えてそのお母さん方や高齢者も一緒に遊んでいました。

のっぽタワーゲームやロングロング

高齢者ふれあいサロン 開設状況

- ①週1回開催型・・・44箇所
- ②月1～2回開催型・・・94箇所



平成28年7月5日(火)に高尾地区で開設された『ここにサロン』を紹介いたします。毎週火曜日の午後、体操やカラオケ、ゲーム、民謡などで参加者の皆さんが楽しい時間を過ごされています。

平成28年7月27日(水)、式見地区公民館にて「サロン情報交換会」が行われました。長崎市小江原・式見地域包括支援センターの主催で行われたこの情報交換会には、式見、手熊、桜が丘、小江原の4地区から、高齢者ふれあいサロンのボランティアの方々総勢30名の他、市関係課や警察署、地域内の病院や介護事業所からもオリーブパーとして多くの関係者が参加されました。

今回初めて近隣地区内のサロン関係者が一同に会したこの情報交換会では、「サロン活動で困っていること」などについてグループに分かれて活発な意見交換が行われました。「参加者を飽きさせない」「メニューづくりに苦労している」「(サロンに)女性はたくさん参加してくれるが、男性の参加が少ない」「サロンのメニューに体操を多く取り入れたいが、指導ができない」「(サロンの)会場が集会所の二階なので、移動が困難な参加者がケガをしないか心配」など、様々な意見があげられました。そのように、パーから「創作体操など、うちの職員が教えることでもできるのでは」と、お気軽にご相談下さい」など、皆さんの助言が寄せられました。「いろいろなアイデアをたくさん知ることができたので、情報交換会に参加してよかった」「サロン活動を応援して下さる福祉の専門職の方々が地域の中にたくさんいるということが分かって心強く感じた」など、参加者にとっても今回の集まりは大変有意義なものになったようです。この会を通じて、サロン同士の交流だけではなく、専門職とのつながりがより一層活発になることを願っています。



各グループとも活発に意見が飛び交っています！

サロン情報交換会